

第 2 2 回総合科学技術会議議事要旨
(日本学術会議部分抜粋)

(開催要領)

1 . 開催日時：2 0 0 2 年 1 1 月 1 1 日 (月) 1 7 : 3 0 ~ 1 8 : 3 0

2 . 場所：総理官邸 4 階大会議室

3 . 出席議員

議長	小泉	純一郎	内閣総理大臣
議員	福田	康夫	内閣官房長官
同	細田	博之	科学技術政策担当大臣
同	片山	虎之	助総務大臣
同	塩川	正十郎	財務大臣
同	遠山	敦子	文部科学大臣
同	平沼	赳夫	経済産業大臣
同	吉川	弘之	日本学術会議会長
同	石井	紫郎	
同	井村	裕夫	
同	黒田	玲子	
同	桑原	洋	
同	白川	英樹	
同	松本	和子	
同	吉野	浩行	

(臨時)

議員	坂口	力	厚生労働大臣 (代理 木村義雄 厚生労働副大臣)
同	大島	理森	農林水産大臣
同	鈴木	俊一	環境大臣 (代理 弘友和夫 環境副大臣)
同	石破	茂	防衛庁長官 (代理 赤城徳彦 防衛庁副長官)

(招へい者)

小柴	昌俊	東京大学名誉教授
田中	耕一	株式会社島津製作所フェロー

(会議概要)

(4) 日本学術会議の在り方について

昨年 4 月以降、日本学術会議の在り方に関する専門調査会において調査・検討を進めてきた「日本学術会議の在り方について(中間まとめ)」について、石井議員から資料 4 1、資料 4 2 に基づき説明。

今後は、「日本学術会議の在り方について(中間まとめ)」(資料 4 2) について国民に対して意見募集を行い、再度総合科学技術会議で審議することとした。

本議題に関する議員の意見は以下のとおり。

(吉川議員)

検討の対象となっている日本学術会議においても、この在り方についての検討を 1998 年以降行ってきましたので、その状況について私から報告します。

石井議員より報告のあった専門調査会の中間取りまとめは、日本学術会議における検討結果と理念的に一致するものであり、また今後の日本学術会議の在り方に対して貴重な示唆を与えるものであると日本学術会議では受け止めている。

しかし、同取りまとめには必ずしも明記されていない点について、若干付言すべきことがあるという判断が日本学術会議において示されているので、2 点紹介する。

第 1 点目として、現在の日本学術会議の会員は、個々の利害を離れて自発的に諸活動に参加している。そして、このような会員の議論を通じて国家的な諸問題や公の課題に対して、科学に立脚した中立的助言をするということを目的としている。したがって、日本学術会議は現行のように国の特別の機関であることが望ましい。

第 2 点目として、今、我が国ではこの利益集団ではない中立的頭脳集団としての科学者コミュニティがようやく成立したところである。これを更に強化し、中間まとめにあるように科学者の英知を結集して社会にとって有益な中立助言を行うためには、70 万人と言われている科学者を代表する 2,500 人ほどの規模が組織として必要である。

この 2 点を付言したい。

(片山議員)

日本学術会議は、現行法で国の特別な機関と位置付けられており、この法的位置付けを変える必要はないと思う。国の特別な機関だからこそ張り切ってやっているというところがあるので、これは是非維持していただきたい。

また、今の会員 200 人程度を 2,500 人程度に広げて欲しい。会員に濃淡を付けたい。中間まとめでは連携会員になっているが、これも工夫をして、吉川議員を始め日本学術会議の皆さんの意向を是非取り入れていただきたい。総合科学技術会議とは違うので、双方が相まって、全般的にやっていくことが私は大変適当だと考えている。